〔大正十一年四月二十二日第三種郵便物認可〕 昭和九年十一月一日 磐城新聞 〔木曜日〕 第四千百六十七號 〔一〕

夕刊 磐城新聞

十月三十一日發行

定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾錢（郵稅拾五錢）
廣告料 普通欄 金六拾錢 特別欄 金九拾錢
發行所 磐城新聞社

（日曜祭日翌日休刊）

創作 紅涙（十四）

加藤純弘

松の根下が掘り返されて！」

その傍に莚をかぶせられた死体が轉がされてある、二人の巡査が見張り番をして群る見物人を近づけなかつた。朝霧深い大岡山に赤い太陽が霧を通して照りはじめた

喜作は娘の帶と、片袖と下駄を見て氣を失ひかけて叫んだ

「娘だ！娘だ！雪枝だ！」

夢中になつて莚を除けやうとした、巡査はその手を押さへて

「お前は心當りがあるのか！」

と、いかめしく聽いた

「へえ、この袖も帶も娘の物に違ひ有りやせん、娘は昨日平澤へ行つたでがす、遲くともきつと歸るつて言つたが歸らなかつたんで……」

喜作は早涙聲になつて、おろ／＼しながら莚を見下ろして答へた

「さうか、お前は停車場前の馬車挽だつたな」

喜作は谷中巡査であることを知つて

「これは旦那様、いや／＼御手數をかけて申譯有りません、娘を殺した奴ぁ分つたでがせうか」

谷中巡査を信頼して尋ねた

「喜作驚くなよ、この死骸には首が無いんだ、首がないので被害者が誰であるか分らなくて困つてゐたのだ

「えッ！首が、首が無い……」

喜作は危く倒れさうになつて。（首が、首が）口の中で繰り返しながら

その時どや／＼と多勢の足音が近づいて來た。五六人の警官と刑事が三人の男女を引き立てゝ、後から見物人が押しかけて來たのである。三人とは言ふまでもなく啞の松吉と父親岩造に富士乃であつた

岩造と富士乃は罪の恐ろしさに慄へ上つて顔色は蒼ざめて、見物の眼をはゞかつてうづむいて居た。松吉は底光りのする凄い眼つきできよろ／＼しながら、警官や自分の殺害した雪枝の死体や、見物人を見廻して何か口の中でつぶやいてゐる

「どうも驚きましたな、啞がこんな大罪を犯さうとは思ひませんでした」

刑事は誰にともなく言つた

「被害者はこの男の娘なんですが」

と谷口巡査は署長に遺留品に依つて相違ない事を報告し、松吉が衣服に包んで持ち去つたと云ふ雪枝の首を雪枝なら谷口巡査も顔見知りであるので實檢する事になつた

潮聲硯靜抄帳

天野雨山選

釣糸を上げし水輪や秋凉し　よしを

窗磨の粉飛ぶ今朝や秋凉し

新凉のへぼ茄子もぎる朝かな　茂堂

新凉や貸間の掃除終りたる

新凉や砂丘に殘る下駄の跡　花堂

鑛山の赤き灯や秋凉し

新凉の校庭走るユニホーム　香村子

新凉や眞新らしき筧樋　一來

垣根から菊賞むる聲や秋凉し　枯萍

磐城歌壇

新妻久滿夫選

『十月唱』　佐藤清長

○松山の山のにほひのほのぼのと、心を渡り秋長けにけり

○ふくふくと夜着干されて赤とんぼ、飛ばずに羽をやすめゐにけり

○身をわたるかせ避け居つゝ燐寸すれば、吾が掌のなかは赤々と燃ゆ

○さし昇る月のまろさよ大きなる、光りに向ひ吾は歩めり

○月晴れしこ宵を啼ける蟋蟀の、と絕ゑて聞ゆ寒けくあるかな

○默然どうち廣がつて十月の、夜をすさまじく月冴え寒し

小評　第一首『松山の山のにほひ』は落ちついた姿の歌である。（松山）の（山）のと畳みかけた手法もよし。三句『心を渡り』再考すべきである。第二首凡『ふつくらと布團は竿にほされたり、そばに鋭き赤唐芥子』といふ歌がある。參考にして欲しい。第五首『月はれし』の歌は佳い。結句も大變に氣がきいてゐる。第六首『默然と云々』の一句二句は突然でうけとり難い點がある。夜空が默然とひろがつてゐる意であらう。結句再考の要あり。（注意）假名遣ひを正しくすること。

病床記

古書識　高瀬勝男

病床に、古書（雪舟筆とあり）をかけ、獨り無聊を慰む、竹林猛虎の圖、氣魄天來の嘯聲にかはり、突風竹林に狂ふ、猛虎悠然一點に眞向いて歩む、作小品なれども筆力雨揮、空氣は方二尺に滿ち満ちてる

つい最近勝男の書庫より出して、表裝を改めしもの（舊來より家にありたり）病床二週間讀書にあきてながめ、思案につかれてながめ、詩心出ててながめ、卓に張子の牛ゆるやかに首ふると思へばながめ、たのしんで居る

ゆるされた煙草はうまい

この書もうまい、毎日毎日あきることなくながめて居る

古書の鑑識は面倒なものだ（文藝春秋十月號伊東忠太氏の隨筆を讀む）痴人鑑識なくし古書を語る、勝男嘗て、大名の作品に接した事尠し、凡そ家寶となすもの幾多散在してるものなるも未だ多く會せず、會せばとて、有難し有難し、三拜して宦廠拜見するのみだ

K家に雪舟の作品あるときく、托げて拜見に樂しみをつくつて居る

正月他所にて傳雪舟の猿公を見て牧淫ならんと、絕讃致したところ豈雪舟筆なりときいて、腦裡に在りもう十一月ぶだその構圖をわすれずの執心だ

社會の今日

11月1日　△社會局設置（大正一一）△帝展二十五周年祝賀式を行ふ（昭和六）△熱田神宮假殿御遷座祭を行ふ△謝滿洲國特使神戶出帆歸國（同七）△日本航空會社の夜間飛行東京、大阪、太刀洗一齊に開始（同八）

○

魚さげて歸さの道に化されな、、の花野の十六夜の」　大村八千代

鳶一羽空に輪ヶ描く小春かな　星路

講談　戶隱奇譚　山の怪秘　(28)

丸山寛雄作　浪木眞書

大誓願の怪（四）

朱骨の有明行燈、薄絹を透したその光は部屋の隅々まで柔らかく屆いてゐた

浮き出された二つの影。それは天靈と岡庭典膳であつた。けばけばしい調度の置いてゐる天靈の居間

「初夜の勤經が終るとはじめて延び／＼した心持になります。さ、ゆるりとお酌致しませう」

二人の間には、黑塗り三つ猫脚の圓盤があつて、色々な馳走が乘つてゐる。これから天靈と岡庭は晩酌といふところであつた

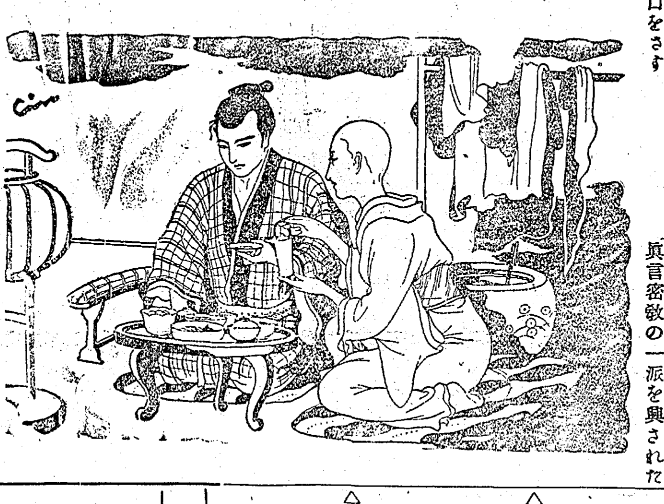
岡庭は湯から上りたてゞもあらう。大口の浴衣で寛いでゐる

「岡庭樣、肩の傷は如何ですか。まだ痛みますか」

「色々有難う存じました。貴方様の有難いお經のおかげで、すつかり痛みも失せてまゐりました。今更、佛の功徳をしみ／＼と身に覺えます」

「色々、傷手當を致す藥などありますが、つまるところ、佛様のお救ひには敵ひません」

天靈は青白い腕をしなやかに差伸べて屹庭典膳へ猪口をさす



「もう身体の方も、大分よくなりましたゆゑ、遠からず山へ戻らうと存じます。思はぬ奇縁から、とんだ御厄介になりました。この御恩終生、肝に銘じて居ります」

「おや、では戶隱山へ、まだお歸りになるのでございますか。お歸りになつてもたゞ宗門の爭ひを繰返すばかりではありませんか。その位ならば寧ろ此處にお止まりになつて、この土地で新に眞言西光寺派をお唱へになつた方が好いかと存じますが……」

事實、岡庭は戶隱西岳へ復歸したところで、天台顯光寺派の寺侍と爭はねばならぬ事は判りきつてゐる。しかのみならず、相手の刈馬平七郎をおびき出してまで果し合ひをした直後である。顯光寺派の或者は必ず仕返しを目論でゐるに違ひない。して見れば、この危險を冒して戶隱西岳へ戻ることは、いゝ事か。惡い事か。典膳は迷はざるを得なくなつた。まして西光寺に居殘る寺侍とては、その數はほんの僅である。到底武力を以て堂々と顯光寺派を向ふに廻して對陣することは、先づ至難の業である

「岡庭樣、あなたは同じ戶隱に居られて御存じか知りませぬが、精學と申される坊さんが、近頃山を下られて、この善光寺の裏山にあたる五輪平といふところで眞言密敎の一派を興されたさうです」

「何、精學と申される？おゝ精學と言へば、同じ戶隱荒倉嶽に居られた如く聞き及んで居りました」

「その精學と申す方が、なんでも風雨に打たれて、絕えてお詣りのなかつた無住の荒れ寺を修理なされ、新しく興された、その眞言密敎の秘法によつて靈驗陀羅尼水とやら申す萬病に即効ある靈水を分たれるので、諸國より大勢の信者が集まつてくるのださうです」

精學と言へば、荒倉嶽の山塞に京歸りの吳葉の顧問格として、よからぬことのみを策してゐた矢張り、西嶽西光寺派の流れを汲む眞言殘黨の寺侍上りである。

吳葉とその弟、瀧之丞が一夜顯光寺の本尊秘佛を盜み出して荒倉嶽を去つたのは目星しい仕事らしい仕事のないのに業を煮やしての行動と首肯ける。その後に殘された吳葉の一味は、どうしてゐるかさすがにこの中にあつても精學は要領がいゝ。吳葉、瀧之丞と前後して、いつか荒倉嶽を脫け出し、今の天靈の語るごとく五輪平と呼ぶ山中で怪しげな一字を建立してゐるのだつた

寄贈書目

△MONAMI（十一月號）文藝作品發表と相互の親睦を目的とせる月一回の同人誌。清新な短歌、詩、俳句、感想、隨筆、創作等が盛られてある（一冊二十錢、東京市銀座五ノ二モナミ社）

△歌壇新報（十月號）地方關係者としては島田忠夫氏が『實作諸相』を書いて居る（一部五錢、東京市牛込區新小川町三ノ一四其社）

△國民法律（十一月號）餘り專門振らず、民衆の爲め法律方面の良き參考誌（一部十五錢、東京市芝區二本榎一ノ四七其社）

廣告

貸切自動車ハ 親切迅速ノ 平タクシー 電話七九番ニ 御用命ヲ願ヒマス 平三丁目警察署通り 遠出ノ際ハ又御相談ヲ

恐ろしい傳染病の豫防に 簡便な内服ワクチンを 一人分 ¥・30 注射と同様な豫防効力のある便利な内服ワクチンでチブス、パラチブスA・B、赤痢、コレラを防ぎませう。 善は急げ豫防は早く 西村屋藥局 平 電2 3

魂の入つた 機關銃印の自轉車 日章旗の如く輝く特長 一、全部鋼鐵、特種壓搾、製 二、自動注油、防水防塵、裝置 三、ヘツト及ひホークのスプリング作動 斯界に比なき數多の特長を有するが故に耐久力は普通車の五倍以上。而かも惡路でも振動を感せず。その輕快さは本車のみ有する特長で製作者の苦心の存する所であります 機關銃印の自轉車（宣傳中）五十八圓 戰車の如く頑强 だと御評判を賜りました フタバ式超重量用リヤカー（宣傳中）廿五圓 永年修繕費のかゝらぬ兩車の御利用を切に御願ひ申上げます フタバ商會 平・新川町・月見橋際

外科 內臟外科 レントゲン線 ◁病室完備▷ 醫學博士 諸橋鐵彌 新川町二七（電四六四）

御報郎時參上 レコードは十錢日掛が便利です ハガキ又は電話 各社レコード 內郷村小島 鈴木商會 電呼二五五

前田醫院 院長 前田清美 植田町電話一二四

秋色を愛でて「ドライブ」を タクシーは尼子へ 車体優美＝御用命は親切迅速をモツトーに！ 尼子タクシー 電六四〇番 洗練されたサービスは完全に皆様の御用を果します

入院隨意（自炊の便あり） 外科専門 X光線科 平 南町 病室完備 上田醫院（電話 一二九）

吸入用酸素 純度99% 度量衡 モノサシ マス ハカリ 計量器 体温器 寒暖計 ◎秤ノ取緒・垂絲・修覆致シマス 關內藥局 電話四〇番

日掛は金十錢以上金五十錢まであります 六ケ月以上御掛けに成れば一ケ年分前貸致します 一ケ年御掛けになれば年五分に相當する配當があります 明日と云はず今直ぐ申込下さい。 商品日掛販賣の權威 平町南町一九 一德合資會社平支店 出張所 四倉町本町九九 湯本町三函二〇一 有給外務員招聘

開店して まだ日が淺い……ハヤシ 品質と新型の自慢品をドコよりもお安く 勉强致します……。何卒御高覽の程を… 冬物…澤山入荷致しました 小中學生用外套、男女小學生オーバ 女學生婦人用オーバ、男女小學生通學服、婦人用文化コート、同高級コート、可愛らしいベビー服 生地裁斷直しもの無料サービス 注文裁縫 平町三丁目角（マルトモ書店向と） 婦人子供 ハヤシ洋服店

貴方の御家庭に お手不足は御座いませんか 本會を御利用下さい…… 直に家政婦を派出します。 親切叮嚀 …料金は極めて低廉です 姙産婦の御家庭 御病人の付添 炊事や雜用 お留守居番 年寄やお子さんの付添 平町紺屋町二（電話 二二） 會主 産婆 上原通子 上原家政婦會

小名濱商港の機構を最初の計劃に還元か
けふ福田仙臺土木出張所長が視察

内務省仙臺土木出張所長福田次吉氏は昨三十日夜小名濱町に至り新米旅館一泊、今三十一日縣來築港事務所長、小野町長、其他の案内で築港の視察を遂げたが右は同港が曩に第二種重要港灣に指定され總工費三百九十八萬圓を以て完成される筈であつたが其後幾度か豫算を變更削減され現在の三百十五萬圓では最初の理想的計劃を行はれぬでは無いかを懸念され之れが第一期既定計劃への還元は從來地方民の熱望措かなかつた處であり、場合によつては輿論に聽從して機宜の工事に出でんとする準備的視察では無いかと觀られてる

新陣容を整へて磐炭に明朗風景
濱崎部長は副所長に榮進

菅原所長が最近本社岡部正樋氏と共に現業員方面から重役に入り、從業員間に極めて明るい氣分を漂はせてゐる磐城炭鑛々業所事務部長濱崎善三郎氏は二年前現職に昇任以來一層所內の指導統制に任じ、爾來內外事務の刷新大に見るべきものあり、恰も第二磐城炭鑛の創設と近き將來に於ける同社との合併に當面し彌々倍々大經綸の發揮を期待されてゐたが菅原所長の重役就任に伴ふ各種用務の輻湊は竟に適當な副所長を必要とするに至り、濱崎氏が其選に入つて副所長に榮進明一日より其の椅子に就く事となつた、事務部長たる事元の儘らしく、從來も同じ事乍ら明敏な菅原所長に配するに人格識見間然する處無き之の副所長を以てする同鑛業所內の空氣は最も輝かしい明日を約束されてゐるものと云ふ事が出來る

郡內山間方面の凶作地救濟着工
平監督所で設計を急ぐ

郡內山間部方面に於ける凶作地應急的救濟總額二萬二千六百圓の土木工事は今三十一日小林所長の歸廳を待ち直にこれが設計に取りかゝり來月早々から縣下のトップを切り着工する事になつたので同所長は明一日早速關係村當局と打合せする筈である、尙今回は近く開かれる臨時議會を前にして縣が獨斷で行つた縣道の局部的改修なので同所長は更に山間部方面の惡村道、及平垣部凶作地の救濟事業起工に關しても縣當局の內意を得たが之亦近く正式決定するであらうと

管內一圓に亘り大々的防火運動
來月五日平署の行事

來月五日縣下一齊に實施される防火運動に際し平署に於ても平、湯本、小名濱、江名の各自動車ポンプによつて宣傳ビラの撒布、平、湯本、小名濱、江名、內郷好間の各町村に於ける講演消防隊の訓練、常設映畫館に於ける標語映寫、及各小學校に於ても夫々講話其他の方法により趣旨の徹底に努むる筈であるが、尙當日避難演習實施の各中等學校或は病院、炭鑛、工場、役場等には同署から今三十一日夫々通知した

。。。。。常備消防協議　平町の常備消防隊設置案は既報の如く過般委員其他が先進地を視察愈々具体化し來月二日午後一時から役場會議室に警備委員會を開き種々これが具体的協議をなすと

人氣沸騰の磐女音樂會
會員券賣行き旺ん

磐城高等女學校櫻丘同窓會では既報の如く來月四日午後二時より同校にジェームス・ダン、ダン道子夫妻の獨唱とピアノ獨奏會を開くが今日迄に既に會員券八百五十枚を賣り盡して盛況を豫想されてゐる

。。。。。木炭檢査打合　濱三郡木炭檢査員打合會は來月四日午前十時役場會議室で開く

赤井疑獄に新召喚四名

赤井村第一耕地整理組合の橫領事件は前組合長宮內喜作氏を依然留置の儘今三十一日更に四名を召喚取調べ中

現役編入者一部決定
所屬部隊も發表さる

今年度徵兵檢査合格者中現役編入者の一部は今三十一日左の如く決定した（括弧內は所屬部隊）

△十二月一日入營—獨步六ノ二步兵鎌田町大友正良（滿洲國錦州）同三丁目久野銀三（同）關東軍鐵三鐵道兵八幡小路田村重一（滿洲國哈爾賓）輜二輜特兵鷹匠町白鳥謹一（仙臺市）△十二月十一日—步七四步兵鍛冶町小野正（朝鮮咸興）步七三步兵紺屋町柏原信一（同羅南）△十二月二十日—工二九工兵胡摩澤　佐々木通典（同會寧）

池田力三郎外三氏は同町水道敷設準備のため今三十一日平水道貯水及淨水池を視察した

今年の寒さ＝は案外早目に來るか
農試分場の氣温統計

秋色は愈々濃度を增して明日からもう霜月だ！朝夕は身慄ひする程の寒さ、そこで農試分場に於ける既往一旬の氣温觀測を聽くと

—去る二十日から二十九日迄十日間の平均温度は十六度、九分で晴天續きだつた關係から昨年同期に比して一度六分ばかり低温だがこれでも最低溫度は昨年より二分程高い三度カッキリ。昨年の初霜が十一月一日だから此の分でお天氣が續けば今年の降霜も來月早々あり、從つて寒さも案外早目に襲つてくるかも知れぬ

とある。發育季の天候不順で收穫は一般に一週間位遲れて農家は忙しい、年の瀨の迫るにつれてストックの現金化に街も活氣が漂ふ。さあ寒い冬が近づきました冬籠りの準備が肝要です

。。。。。海兵志願十六名。　來年度海軍志願兵は既報の如く前回に比し町役場では各區長と連絡勸誘中だつたが今三十一日現在で十六名に上り此の分ならば今年度數には上るものと觀られてゐると

。。。。。平上水道見學　山形縣本莊町長齋藤彌太郎氏及町議

米穀商連 買約を焦る
高低槑して如何

郡下一萬石と稱さるゝ籾の貯藏も愈々今三十一日を以て解除となり之により現在の米價も幾分低値を示すものと期待されて居たが各米穀商はこれにより一萬三千俵の米が市場に出廻るべく、近く大阪の濡れ米、政府米等も入る所から米價は一時に低下するであらうとの口實で過般來各貯藏家に對し買約運動を開始し大体一俵十一圓位で契約してゐるらしく茲許商人も意外の利得にあづかるらしいと

一部では凡調豫想　去る八、九の兩日郡產四等米が今年度最高値石三十圓三十錢を示した事は既報の如くであるが其後漸落を辿り、十五、六日は二十八圓二十六錢迄になつたが其後復々漸騰を辿り昨三十日には二十九圓五錢に上り、今三十一日の籾貯藏解除に伴ふ出廻りの增加で幾分値下りを豫想されたが商人が右貯藏籾を買占め市場の出廻りが案外僅少らしく價格にはさしたる影響はあるまいと見て居る向もある

新米十俵出荷
明一日の共同販賣 價格は低調を豫想

明一日平農倉で行はれる石城聯販の白米共販の出荷は既報草野村泉崎よりの新米の走り十俵のみであるが昨年の初出廻りは前年より遙かに品質が良かつたのと當時は米價が安かつたため古米より高値を呼んだが今年は古米より幾分低調を示すものと見られて居る

洋服職人鐵道往生
年長の女主人へ 淒慘な愛慾清算

昨三十日平着午後十一時三十一分下り列車が平町鍛冶町稻荷山トンネル附近にさしかゝつた際飛び込み自殺を圖り胴体眞二つに轢死した男は平署で取調べの結果同町紺屋町一〇關洋服店職人茨城縣多賀郡助川町會津彌市四男柴田四郞(三五)と判明、友人及同店女主人ハツ(四二)さんにあてゝ

色々御世話樣になりましたが死んで一切を清算致します、出來た子は立派に育てゝ下さい

との遺書あり、三年前主人に先だゝれた女主人と同棲してゐたが元の情婦である神奈川縣平塚市中野町通り遊廓某樓の娼妓から最近頻りに頼りされるを苦にしたものらしく觀られてゐると

風露爽冷の季
物足らぬ穗先に歌無き 霜月のスケデュール

水天一色

愈々明日から十一月、灌葉樹は落葉を始め、峽谷の楓は夕陽に映えて觀る人の顏も亦紅い收穫の秋、然し握つて物足らぬ穗先に歌なきどりいれも小春日和に又慘めだ。此の月、スポーツの十月の後を受けて僅かに掉尾を飾るに過ぎぬが野球、庭球、籠球と若き健康人の胸を躍らせて止まぬ。斯して逝く秋は落葉しつくす梢に一つ、只一つ名陶工の留めた眞紅の柿の果、鴉は夕暮をなく蕭條たる冬景色の前奏曲ではある、寂しき薄暗の丘から旅人の唄、張り眺むる空は黑く雁の列は逝く……

一日—舊曆にて九月二十四日、平商校內体育大會始る、今日から三日間入山菊花大會
二日—四日迄美友會第十七回展(於マルトモホール)
三日—明治節、体育祭、川前夏井川河畔で文豪桂月の歌碑建碑式、平女子靑年團並に婦人會總集會、同業常磐毎日主催中等教員野球リーグ戰
四日(日)—磐女櫻丘會音樂會、石城敎育部會總集會(於平第一校)平町內軟式野球大會（於磐中、平商第一、第三校庭）磐中文會第四十三回展(於訓盲院)
六日—衞生研究會(平第三)
七日—同上(錦校)
八日—立冬
十一日—東部聯合敎育會總集會(於相馬中村)
十四日—曆十月八日で安藤鶴翁公の命日
十六日—体操科指導研究會(於第一校)
十七日—同上(湯本校)
十八日(日)—今明日郡靑訓聯合演習（於草野、大浦村方面)
廿三日—新嘗祭、小雪、郡小學兒童籠球大會(於磐中、平商、第一、第二校コート)
廿五日—郡下敎員庭球大會(於第一、平商コート)
廿六日—舊夷講
廿九日—廿三夜會祭典

幽境川前附近（四）
山口彌一郞

現在の北海道アイヌ族が神居古潭の溪谷美は既に內地文化にゆだねても時に山野を跋涉して紅葉を探り、台灣の霧社の蕃人と雖も人止めの關や能高の溪谷美を觀賞して止まない。大自然と共に生活した古先住民がこの夏井川溪谷を如何に味つたか、一つの巖頭にも盡きぬ古代よりの思ひ出は綴くのである

●溪谷に沿ふ人文景

何時頃からこの溪谷が交通路として使用されたかは知る由もないが、恐らく杣人の通る以上の道が既に古くから通じてゐたらうと思はれる。磐城街道として現在の縣道の基礎を開いたのは三島通庸氏が福島縣令となつた明治十五、六、七年である。最近平町の吉田氏より、增澤氏の寄せられた詳細な當時の記錄を、提供された。三島縣令が縣道開發の先見者で當時非常な波瀾があつたにも拘らず其後等しく其の明に對して感謝して居る事は縷々說述の必要はない。小野新町を經て中通り方面へ馬車が通じ、この交通路に沿ふて川前の如き宿場又は上小川、片石田高崎、江田、椚平等に馬車宿駄菓子店等が發達し、草鞋を下げた爺婆の峠の茶屋ならずとも溪谷に沿ふ茶屋が發達した

然るに遂いにこの溪谷にも近代經濟機構の下に發達した文化の光がさし込んだのである。一つは大正三年一月に開通した平郡線、即ち現在の磐越東線であり、他は水力を利用した發電工業の勃興である。如何にこの鐵道開通が經濟上に影響したかは川前がよく物語つてゐる。今までの平凡な雜木林は一顯、薪炭、木材となつて中通り、或は溜通りはては東京の中央市場にまで進出、多數の急造杣人が集り、家屋が建ち、人口增加し、川前も小市街の觀を呈した。此處に一人の先覺者があつたらと思ふが無統制な伐採は續けられ、夏井川溪谷はからうじて官林である谷壁の森林を除いては利を見た狂へる斧のなすがまゝに委ねられた。その夢さめた村人は杣人の去つた空屋を眺めてどんな思ひにふけつてゐることであらう。而かも尙ほ川前驛の一ケ年移出噸數約七、〇〇〇噸中八割以上を木炭、木材が占めてゐる。數年前、年々小學校兒童數の減りつゝあるのを聞いたことがある。現在はどうなつてゐるだらうか。そして衰退したものに道路に沿ふ馬車宿があり、駄菓子店がある

第二女兒書方應募

平第二校では來る十三、四の兩日小高町小學校に開催さるる群芳會主催の全國書道展覽會に左記兒童の作品を出品する

(尋二)草野トシ子　根本利子　井上節子　鈴木知惠子　(三)廣瀨義子　中野靜子　太田二三子　酒井正子　(四)矢田部富子　大嶺悅子　大和田キヨ子　五十嵐澄子　千葉怜子　(五)馬目靜　木田秀子　梅津吉子　酒井良子　(六)鈴木スゞ子　根本ツネ子　鳥海珠　關內義子　(高一)横山キミ子　廣邊昌子　靑山佳子　栗田ケイ子　近藤シヅイ　鈴木省子　石井美智子　(二)小野文子　小菅イノ　大木豊子　小谷テル子

平青年團驛傳競走撤回

平青年團主催分團對抗驛傳競走は來月三日明治節當日行はれる筈だつたが今卅一日迄に僅か四チームの申込みなので中止することになつた

。。。。。第一驛傳競走　平第一校では來月三日の明治節（体育祭）には全校選拔の町內驛傳競走を行ふ豫定であると

無盡社員見學

平町磐城無盡商會從業員一同は明一日の無盡業法發布記念日をトし若松、仙臺、日光と全員を三班に別ち自動車で見學に出發大に庶民金融機構の宣傳をなすと

地方を騷がせた少女殺し豫審終結
近く平支部で公判

勿來町大字酒井字出藏二〇大日本炭鑛勿來坑坑夫長屋居住秋田縣川添村芝野新田生れ松次郞二男廿井直勇中(一七)が去る六月廿一日夜同坑坑夫長屋直三郞四女渡邊淸子(六)を寢所より抱き出し同坑事務所前田圃で泥中に頭部を押込み窒息死亡せしめた殺人事件は過般來平支部荒井豫審判事係り審理中であつたが昨三十日終結決定して平支部の公判に附された

。。。。。始業時間繰下　平町各小學校では明一日より八時三十分始業に改む

。。。。。健康保健醫指定　平町南町醫師川井安子氏は此程健康保險醫に指定された

。。。。。過失運公に卅圓　伊達郡富田町大字鶴澤字川端管野德次方自動車運轉手佐々木一男(三二)は七月二十三日松材をトラックに滿載双葉郡浪江町大字權現堂字下續地內に差蒐つた際十字路で注意を怠り自轉車に乘り橫町より現れた同町林政記(四〇)に衝突、股部に二週間を要する打撲傷を與へ此程平區より略式で罰金三十圓に處された

。。。。。古物商の違反　平町堂の前古物商深野孝治(三四)は去る九日から十一日に掛け同町紺野某より持主も調べず筒外套外三點を買受け且記帳を忘つたので略式罰金六圓。又同町才槌小路古物商高橋幸(三九)は去る一月下旬より七月上旬に掛け前後數回に亘り身許の分らぬ者より懷中時計外數點を買受け同じく罰金五圓

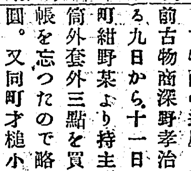
。。。。。無斷で火入れ　三坂村大字上三坂字綱木農草野萬太郞(三三)は八月十日頃無免許で自宅附近の原野に火入れをなした事發覺、略式罰金五圓

。。。。。植田武道大會　植田町武德會主催第十回武道大會は來月四日午前八時から同町小學校講堂に開く

挨の巷

大野村湯の澤玉山鑛泉籐屋事高木勝太郞氏方に大浦村大字仁井田字桐向五五農鈴木喜三郞(三八)と稱し去る五日以來滯在せる湯治客の擧動に腑に落ちぬ處あり、宿料も四十餘圓になつたので駐在所の手により內偵した處、右は此種の物見遊山を好む異狀者と判明、服裝等から信じ切つてゐた宿の人達一同口あんぐりの態であつたと

一日
日出 六、〇二　月出前 〇、〇〇
日没 四、四六　月没後 一、二八
滿潮後 一、四〇　干潮前 六、二五　後 八、二五



舊九月二十四日　木曜　丙子　友引　滿　奎宿　新十一月一日

斷判定曆　東京市本鄉區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神鑑

▲一白の人　一途に望みを遂げんとせば進路に妨げ起る▲二黑の人　逡巡して事を遂げ難し初志の達成に努めよ▲三碧の人　間隙を生じ人に乘ぜられ易き日なれば注意▲四綠の人　着實なれば平安を有つ日金談は見合すべし▲五黃の人　事志に添はざる日失費散財も多からんとす▲六白の人　蟻の穴より堤も崩る用意周到に事を進めよ▲七赤の人　失費意外に嵩みて收拾困難に陷ることあり▲八白の人　苦惱のゐ時に努むべき日又盗難失物に注意▲九紫の人　人後に落ちず率先して勵まれば發展の兆

內臓外科一般　外科花柳病科（入院隨意）
平町六丁目(橋際)
木村外科醫院
電話三〇九

氣管、食道科、耳鼻、咽喉科、專門
平町南町（元眞木辯護士跡）
增田耳鼻咽喉科醫院
電話 四八二番
（入院隨意）

貸切の御用命は
ぜひ三四年型揃ひの
三井自動車部へ!!!
電話六八五番
◎乘合は好間、合戶、澤渡方面行